# 「非小細胞肺癌における周術期栄養状態、併存症と術後経過についての検討」のお知らせ

非小細胞肺癌（肺腺癌、肺扁平上皮癌、大細胞癌等）は、肺癌の約 8 割を占め、早期の場合には手術による根治が期待できる疾患です。肺癌をお持ちの方は、腫瘍によるエネルギー消費量の増大などにより、低栄養状態になりやすい傾向があるとされています。また、社会の高齢化に伴い、肺癌以外の病気をお持ちの方や治療中の方も肺手術を受けられるケースが増えてきました。近年、複数のご病気をお持ちの方では、栄養状態が悪くなりやすいことが指摘されており、肺の手術では、肺機能だけでなく、栄養状態や治療中の他疾患の状態も重要ではないかと言われ始めています。しかし、実際に重要性が高いのか、どの程度の状態であれば手術がより安全に行えるのか等については未だ十分には解明されていません。そこで、非小細胞肺癌に対して肺切除術を受けられた患者さんの情報を集めて、手術に関連する因子、特に術前栄養状態や併存症（治療が終了したもしくは治療中のご病気）と術後経過の関連を探索する研究を行っています。

＜調査対象＞

当院で 2011 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までの期間に原発性肺癌（非小細胞肺癌）に対して肺切除術をうけられた患者さん

＜調査期間＞2022 年 12月 31 日までを予定しています

＜調査内容＞

年齢、性別、身長、体重、併存症（これまで罹られた、もしくは治療中のご病気）とそれに対する治療の有無、PS（全身状態の指標）、喫煙歴、飲酒歴、血液検査結果、腫瘍マーカー、血液ガス、呼吸機能、肺癌（病期・組織型など）に関するデータ、術前・術後化学療法の有無、術前放射線療法の有無、ステロイド薬使用の有無、術式、手術部位、胸腔鏡の有無、リンパ節郭清の有無、血管処理の有無、手術時間、出血、術中および術後合併症、合併症に対する治療の有無、術後追加治療の有無、転帰などの情報を収集します。

調査で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は，当院呼吸器外科でまとめられて、学会や出版物として公表することがありますが、その場合でも個人情報が漏れることはありません。プライバシーは守られます。

本調査の趣旨をご理解いただき本調査に参加をお願いします。もしそれを望まれない場合やご質問がある場合は担当医師にお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年４月５日　呼吸器センター呼吸器外科　部長　青山　晃博
副部長　髙橋　守